

「宗祖降誕会」を迎えて

親鸞聖人は、平安時代の末、1173年5月21日に藤原氏の一門であった日野有範の子として、京都の東南日野の里で誕生されました。

そして9歳の春、仏の道に進もうと決心して、京都青蓮院の慈円僧正に従って出家し、比叡山に登られました。（『明日ありと思う心のあだ桜、夜半に嵐の吹かぬものかは』という和歌を詠んで出家したといわれています。）

その後20年間、比叡山で修業し、29歳のとき修業に満足できず、京都の街に下りて、六角堂に参籠し（六角堂は聖徳太子の創建と伝えられる。100日の祈願を修行）、95日目の暁、聖徳太子の示現にあずかり、法然上人の門に入られました。法然69歳、親鸞29歳の出会いでありました。



「信ずるほかに別の子細なきなり・・・。たとえ、法然上人にすかされまいらせて（騙されて）念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずそうろう」（歎異抄）と親鸞聖人は述べています。これは「法然上人から念仏を唱えれば救われて極楽に行くと言われたのに、それは全くの嘘で念仏を唱えて死んでみたら地獄だった。たとえそうであっても私は後悔しません。」という、とても強く、また深い子弟関係であったことがわかります。

以来6年間、恩師の肉声を聞き（念仏弾圧、承元の法難により別々の地に流罪となり、二度と会うことができませんでした。）、その教えを以後、60年に渡って燃焼しつづけました。

専修念仏・・・それは阿弥陀仏の本願を信じ、南無阿弥陀仏と称えて救われ、浄土に迎えられるという宗教であります。

1262年1月16日、90歳で亡くなられる（入滅往生）まで、阿弥陀仏信仰一仏に生かされる日々を過ごされました。

今日一日、親鸞聖人のご誕生日をみなさんと共にお祝い致しましょう。